

## 「明治学院の要、我らがチャペル」

五嶋正道（1957年中学入学、1967年商学科卒）

白金の中学、高校、大学と10年、あのキャンパスで青春を過ごした私にとってチャペルを中心とした学院風景は肌に深く染み込んだ世界です。ことに中学時代の、人間として半人前以下の餓鬼の時代の思い出は一生忘れられないものです。

中学時代、チャペルでの毎朝の礼拝。冬の寒い季節、座った時の椅子のヒヤッとした冷たさ。暑い季節の朝一番の椅子の心地よい冷たさ。その長椅子が現在もチャペルで使われています。聖書の中にイエス・キリストを見つけ出す様に、あのチャペルに私の遠くなりつつある過去も見つけ出す、といった感慨に浸る様な年齢に私もなってしまいました。

餓鬼（中学時代）の頃の馬鹿な思い出をちょっとお話します。

駐日アメリカ大使だったライシャワー氏が子供の頃、明治学院構内に住まわれていた時にチャペルに隣接していた木に登りご自身のイニシャルを刻まれた大木がありました。

数人の仲間とその大木にオシッコをかけていた時、先生に見つかり追いかけられたことがありました。勿論、身体能力の差で簡単に逃げることができました。

あの記念すべき大木もとうとう枯れてなくなってしまいました。

ついでにもう一つ中学時代の礼拝風景を。

今のチャペルには素晴らしいパイプオルガンがあります。しかし、私の中学時代のチャペルでは、スタンド型の古いピアノでした。礼拝は先生が当番制でお説教をされてしまいました。中学校なりに深く考えさせられるお話も時にありましたが、殆どは眠気を誘うお話でありました。また、眠気を覚えるのは生徒だけではありません。

讃美歌のピアノ伴奏は上○先生（上○の婆ちゃん）小○先生、国○先生でした。国○先生はピアノ伴奏の時以外はピアノの椅子から離れ、近くの椅子に座り直していました。上○先生と小○先生はピアノの椅子にそのまま座りっぱなし。お説教が始まって直ぐに眠くなり船を漕ぎ出します。生徒たちも眠たさで意識朦朧となり夢心地。

その時突如、「ガチャーン！」と強烈な不協和音がチャペル全体に響きわたります。それは生徒も先生も「ハッ！」と我に返る瞬間です。